

プリモン・プニャム研究員（タイ）



私はタイの内務省防災局から参りましたプリモン・プニャムと申します、今年の1月から4ヶ月間、日本の防災システムについて学ぶため、客員研究員としてADRCに滞在しています。

タイは北緯5～21度、東経97～106度に位置し、ラオス、ミャンマー、カンボジア、マレーシアと国境を接した総面積51万3,115平方キロの国です。国土は大きく4つの地域、北部、中央部、東北部、南部に分かれます。タイの気候は、平均最高気温34度、最低気温23度と高温多湿です。人口は6,600万人、その内31.1%が首都バンコクに住む都市人口で、94%がタイ語を話す仏教徒です。

タイは洪水、地滑り、干ばつ、寒波、火災や暴風といった自然災害にさらされています。北部の山岳地帯では、鉄砲水、地滑り、土石流などを引き起こします。東北部は乾燥地域で、雨期（5月～10月）は鉄砲水や浸水、それ以外の季節（11月～4月）は厳しい干ばつや寒波にみまわれます。

中央部の広大な沃野では、雨期には河川の洪水、都市型浸水の影響を受けます。南部の西海岸の丘陵地と東の海岸平野では、鉄砲水、土砂崩れ、熱帯暴風雨、森林火災が頻繁に起こります。

現在私は、タイの内務省防災局研究・国際協力部に勤務しています。私の業務は自然災害・人的災害の管理システムに関する情報収集や研究です。日本は洪水対策においてもっとも進んだ国だと思います。その国で洪水対策を学べることは大変光栄であり、また日本で学んだことを本国での今後の取り組みに活かすことができると信じています。専門的知識と経験を得る機会を与えてくれたADRCに感謝いたします。日本での滞在は私の人生で忘れられない経験となることでしょう。